



2019年3月
第687号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



「他住陪餐会員」

平塚教会牧師 北川 一明

…そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。

「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話するのは好ましくない。それで、兄弟たち、あなたがたの中から、「霊」と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」
一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、バルメナ、アンテリオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。

こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。
(使徒言行録六・一〜七)

今までの平塚教会の教会籍は「現住陪餐会員」と「未陪餐会員」がありました。三月の役員会では「現住陪餐会員」「未陪餐会員」の他に「他住陪餐会員」という籍を設けることを決めました。

『おとずれ』本号では、他住陪餐会員の意味と、いかに現住と他住を区別するかをご説明します。

未信者が洗礼を受ける時、いずれかの教会に所属することになります。そうでなければ、一人で勝手に信仰者であると言い張っているに過ぎません。

教会に所属すると、教会籍が作られます。現住陪餐会員も他住陪餐会員も、どちらも教会員であり教会籍があることには何ら変わりがありません。

信徒は教会籍を失う場合があります。ひとつは教会戒規執行の決議がなされて「除籍」になった場合です。中世までは、これを「命の書」から名前を消されたと理解されてきました。

現住陪餐会員でも他住陪餐会員でも、長く（最低三年以上）出席も献金もない場合は名簿から外して別帳に移します。別帳に移された信徒は教会籍を失ったわけではありません。ただ消息不明の場合などは、教会は信仰上の手当をすることができません。

さて、洗礼を受ける時に自ら誓約した通り、教会籍を有する教会員は自分の教会に対して責任を負います。礼拝に出席し、祈りと奉仕で教会の宣教と伝道に協力し、経済的に教会を支える責任です。

また教会総会など「キリストの名による会議」に出席

目次

「他住陪餐会員」

北川一明牧師…1

「皆様よろしくお願ひ致します」

庄司壽美…3

転入会された皆様

「宜しくお願ひいたします」

庄司幸夫…4

「感謝」

杉浦忠武…2

…4

「ご挨拶」

杉浦章子…3

編集後祈

するのも信徒の重要な責任の一つです。祈りをもってなされた教会会議での決定は、神の御心が反映されると信じるからです。教会総会での重要な議案の一つは、たとえばその教会の導き手を誰に担ってもらうか決める役員選挙などがあります。

冒頭に掲げた聖書では、使徒ペトロらが神の言葉を伝える宣教の仕事をしていました。

しかし実際の教会生活では、会を適切に治める役割までは到底担い切れなくなりました。

そこで「兄弟たち、あなたがたの中から、『霊』と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい」ということになりました。

選ばれた人も選んだ人も、今で言う「教員」です。選んだ会議が「教会総会」ということになります。教会総会で議決権を行使することは、教員の大切な権利であるとともに義務でもあります。

ところで教会の事情が分からないまま議決権を行使するのでは無責任になります。総会議員資格は教会生活とセットで考えられるべきものです。

ところが他所に在住していたり、施設入居や病気療養のために教会に長く出席できないことがあります。その場合は教会総会に出ても議決権を行使するだけの判断が困難です。

他住陪餐会員とは、教会総会に出席する義

務を免除しようというものです。もつとも義務とセットである教会総会議員資格も一旦は保留します。それでも事情が許せば教会総会に出て、教会の最新事情をぜひ知っていたきたいと思えます。

他の教会では「他住会員」「不在会員」という言い方をするのが一般的です。しかし平塚教会では、聖餐に与る権利は何ら変わらないうことを明示するために「他住陪餐会員」という名称にしました。

三月の役員会では、当面は、現住／他住の別を教会側で決めることはしないことにしました。

礼拝に出席できない、教会総会に出ることができないと気に病んでいるかたがあります。そうしたかたたちが事情が許すまでその義務は保留してほしいという申し出があったら「他住陪餐会員」の籍になっていたかどうか考えたのです。



転入会された皆様

「感謝」

杉浦 忠武

導かれて平塚教会に転入会が許され大変嬉しく感謝しています。

私は1938年7月、五人兄弟の末っ子として東京牛込で生まれました。父は幼少の時杉浦家の養子となりました。父の生家は四国丸亀藩家老の家でしたが、実父は早逝し実母は苦勞し、末っ子の父を養子に出さざるを得なかったのです。

父を養子として迎えた杉浦家の家はクリスマスチャンホームで、身一つで来なさいと温かく迎えてくれたそうで、実母はクリスマスチャンとはこういうものかと感激し、自らも洗礼を受け後に伝道師となりました。父の兄弟も全て受洗し、私達の今に繋がっています。

私が初めて教会に行ったのは、横浜の紅葉坂教会です。終戦の年小学校一年生の時から父や兄に連れられて日曜学校に通いました。家でも賛美歌を歌ったり聖書を読んだりお祈りをしました。家族で賛美歌をコーラスしたり、教会で聖歌隊の演奏に聴き入ったりしたのが私の合唱生活の原点です。大学生活も終わりの頃、父が脳血栓で倒れ、意識は極めてはっきりしているが半身不随の寝たきりとなりました。この身体の自由が利かない不自由な闘病生活は、私の就職・結婚・第二子誕生まで実に八年間も続きました。意識がはつき

りしていて身体の自由が効かないのは、大変辛かっただろうと思います。それでも父は弱音や文句の一つも言わず、逆に私の会社勤めの詰らない愚痴をよく聞いてくれたのです。辛いはずなのに、なぜこのように泰然自若としていられるのだろうか、明治生れのスポーツマンだからかと思っていました。このうちこれは信仰の力だと気付きました。神の手に全てを委ねていたのです。1970年初夏、父は長い闘病生活を終え感謝の言葉を残して天に召されました。そして私は、この年のクリスマスに上泉浩牧師より洗礼を受けました。

私は八年前に前立腺癌に冒され、症状がやや落ち着いた六年程前に、ゆたつりと暮らすべく温暖なこの地に鎌倉の山から移り住みました。そして更に、その二年後に妻が大腸癌に冒されました。どうしてこうなるのかとショックで落ち込みましたが、医師を始めグリークラブの仲間・幼友達・教会の皆様等、沢山の人が私達の事を気遣って下さったおかげで、現在は二人共寛解の状態です。神様は色々な人を通じ勇気を下さっています。これからも全てを神の御手に委ね、楽しく歌い、笑顔で感謝していこうと思います。

「J」挨拶

杉浦 章子

この度、平塚教会へ転入会出来ました事に深い感謝で一杯です。宜しくお願い致します。私は1939年東京杉並で生まれ、子ども

の頃は馬橋教会へ通っていました。いつか遠のいた教会への道を、就職して出会ったKさんにより再び開かれました。Kさんは純粋でまっすぐ神様を見つめ信じている方で、その生き方の清冽さに惹かれ導かれてカトリック高円寺教会で学び、1961年8月14日北沢昇平神父より洗礼を授かりました。

同じ職場で杉浦忠武と出会い結婚する事になり、紅葉坂教会に行き、ここで私は大きな試練を受けます。上泉牧師は「結婚する夫婦は同じ教会が望ましい」と強く仰せられたのです。これは私にとって青天の霹靂、カトリックとプロテスタントの出会いがこの様な形になるとは。悩みに悩んで北沢神父を訪ねました。話を聴きじつと考え込んだ末に神父は「貴女の気持ちはもう決まっているのですね。それなら心に従って真直ぐ行きなさい。どこの教会に行っても神様は一つです。カトリックの洗礼は、どこの教会に行っても認められます。決して信仰の灯を消さないように」と仰せられました。上泉牧師に報告し紅葉坂教会に受け入れて頂き、1967年5月20日結婚しました。

子ども達が幼稚園に入る時は、上泉牧師の紹介で大船教会幼稚園にお世話になり、岡崎牧師の下で、聖書研究会・読書会・衣笠ホームの奉仕活動等、子どもと一緒に学びました。また点訳を知る機会が有り、講座を受け資格を取り点訳ボランティアを始めました。今迄デラシネの様だった教会生活も、紅葉坂教会に復帰し、落ち着いた生活を送れるようにな

りました。

2011年、夫が突然癌告知を受け、検査入院治療と並行して2012年マンシオン探し引越しと無我夢中で駆け抜けてきました。二年後私が大腸癌になり共に闘病生活をする事になりました。癌になり免疫力が衰え、左目は緑内障でサングラスが欠かせません。この四年間教会の沢山の友人達の祈りに支えられ、祈る事について深く考えさせられました。人の悲しみ痛みに触れた時、私達に出来る事はただ祈る事しか無いけれども、その祈りは、どんなに人を慰め励まし体や心の痛みを和らげる力を持っているかという事を体験しました。

車をやめ緑深い鎌倉の山から平塚の平地に根をおろして、これからの私には、何が出来るか何をすべきかと模索して、いつか小さな花を咲かせていけたらと思っている日々です。

「皆様よろしくお願い致します」

庄司 壽美

私は鶴岡で四姉妹の長女、跡継ぎとして真言宗の家に育ちました。

進学先の弘前でイエス様を知り、率直に目から鱗でした。それと何か分かりませんが安堵感のようなものもありました。雪の街で経験したキャロリングはとても印象深く残っています。入院病棟の前で歌っている私達を温かい空気で包んで下さった患者さん達には励まされ幸せでした。

宗教主事の嶺尚ご夫妻には大変お世話になりました。次に進む道として埼玉県加須市の社会福祉法人「愛の泉」とご親友の森田弘道愛泉教会牧師を紹介頂きました。法人理事長のゲルトルド・エリザベツ・キュックリヒ女史はご高齢にも関わらず熱心にピアノを教えて下さり、保育士国家資格の受験も勧めて頂きました。無事に合格できた事は将来の生活の賜物となり、心から感謝しております。夏のお泊り保育は旧軽井沢の別荘で子ども達とキュックリヒ先生はじめ皆と過ごした日々が懐かしいです。「ママさん」と親しまれていた先生のお姿は深い使命感による献身的な愛に満ち溢れていました。中でも「我らは（助ける）人なきひとのために（助ける）ひとになる」というお言葉は忘れる事ができません。今では遺訓となりましたが一生の宝として感謝し大切に生きていきたいと思っております。

クリスマスに森田牧師に洗礼を授けて頂きましたが、その翌年には結婚のため上京することになりました。東京での結婚式にも関わらず森田牧師の司式で、キュックリヒ先生が奏楽を下さり、弘前から嶺ご夫妻にもお越しいただけたことは最高の喜びでした。

板橋にて年の離れた3人の息子に恵まれ、野球にラグビー、アメフトの応援団として追っかけを楽しみ、大学の父母会では遠征先の京都まで行くなど盛り沢山でした。

いよいよ子ども達も巣立ち、役目を終えましたので思い切って新しい地に移りました。大磯では放課後子ども教室、朝の居場所づく

りなどのボランティア、地元の合唱団にも加わり第二の生活を満喫中です。

皆様の平塚教会に導かれた事を深く感謝致します。どうぞ宜しくお願い致します。

「宜しく願いました」

庄司 幸夫

この度日本基督教団平塚教会に迎え入れていただき心より感謝いたします。

私は、北海道の日本基督教会室蘭教会にて導かれ、高校二年のペンテコステに佐々木俊雄牧師により受洗させて頂きました。幼い時には兄弟四人で雪玉のぶつけっこをしながら一時間ほど歩いて、三好新蔵牧師の日曜学校に行ったことを楽しく思い出します。

進学を機に教団の弘前教会に通うようになり、教会青年会・大学YMCAに属しておりました。当時は七十年安保を目前にして学生運動や靖国問題等、社会と教会の在り方に敏感な時で、大木英二牧師、弘前学院嶺尚宗教主事にお世話になりました。また学院学生寮の宗教委員に教会からの週報等を届ける役をしており、その際に妻と知り合いました。

就職で上京し、会社勤めに追われていたが幸い教団の東京池袋教会を知りました。子どもが幼い時には教会生活にも恵まれ、加藤亮一牧師並びに教会員の方々と親しく交わられた事は、子ども達にも幾ばくかの影響を与えられたと感謝しております。また加藤牧師はインドネシアにて戦争に自ら加担した「つぐない」として、戦争の傷跡を受けた東南ア

ジアの若者を留学生や研修生として受入れ、親身にお世話をしている姿はキリスト者としての在り方を教えられました。しかし、子ども達が少年野球を始めると、日曜日は一番忙しい日と化しました。そんな中、加藤牧師と教会員との間で「東南アジア文化友好協会」を巡る問題が起こり、さらに教会から遠のいたまま退職を迎えることになりました。

退職後は予てから静かな暖かい地に住もうと考えていたことから、当てもなく西へ西へと「終の棲家」となるべく地を探し、大磯に辿り着いた次第です。今の地に住んで九年になろうとしています。好きな旅行と写真を楽しみながら、夫婦揃って母教会となった平塚教会にて礼拝が出来る事を感謝致します。



杉浦忠武兄 杉浦章子姉
庄司壽美姉 庄司幸夫兄

編集後祈
主に感謝

皆様に感謝

編集子